

児童虐待の現状と課題

—家庭復帰の検討をとしての一考察—

○ 大阪青山大学短期大学部 氏名 寅屋 壽廣 (7716)

キーワード 児童虐待・一時保護・家庭復帰

1. 研究目的

児童虐待は年々増加の傾向にある。児童虐待についての認識が一般市民にも広がってきたことなどから児童相談所への通告も増加している。児童相談所の役割として通告があった場合は、48時間以内に安全確認を行い、児童の状況や保護者の態度等を勘案して、児童の安全確保が必要と判断した場合、保護者から引き離して一時保護の措置をとることになっている。その後、家庭に復帰させることが適当であるか、児童福祉施設等で当分の間、生活させることが適当であるかなどを検討して、子どもの最善の利益をめざした措置が取られることになる。児童が一時保護された場合でも施設入所した場合でも家族との再統合を図ることが必要であり、適切な時期に家庭復帰について検討会議が開かれることになる。その検討会議で出されたケースを分析することで、なぜ、虐待が起こってしまったのか、児童に対する措置は妥当であったのか、今後、地域で生活することになるが、どのようにすれば再発防止につながるのかなど児童虐待の防止につながる方策を得ることを目的とする。さらにこの調査研究に基づき子育て中の家庭への支援のあり方が明確になるものと思われる。

2. 研究の視点および方法

検討の場では、児童の年齢や家族構成、家族の生活歴や親族との関係、虐待に至った要因や指導経過の概要、社会診断、心理・医学診断、行動診断、保護者の意向、児童の意向などが説明されるとともに、家庭復帰の適否を判断するためのチェックリスト、安全確認チェックシート、リスク要因のチェック表に基づいて家庭復帰の要否が議論されている。

保護者から引き離さなければならなかった事案をとおして、今後の児童虐待を防止するための方策や支援のあり方について研究する。

研究にあたっては、A 児童相談所で 25 年度及び 26 年度に家庭復帰を検討したケースに基づき、児童虐待が生じた背景や家庭復帰に向けてどのような支援を行ってきたのか、再発させないための地域での支援のあり方等について分析する。

3. 倫理的配慮

本研究については、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づいて行っており、対象者を特定できないように匿名化して使用している。

4. 研究結果

A 児童相談所で家庭復帰が検討されたケースは、ここ 2~3 年は 20 件程度であり、一時保護からのケースは 10 件前後で、10 人前後の児童について行われている。児童福祉施設等からの家庭復帰検討ケースは、平成 25 年度が 11 人、平成 26 年度が 12 人であり、毎年 10 人余りの児童について検討が行われている。

一時保護または施設等から家庭復帰を検討された児童の年齢は、平成 25 年度と平成 26 年度を合わせて 0~3 歳未満が 8 人(17%)、3~学齢前が 7 人(15%)、小学生が 19 人(41%)、中学生が 11 人(23%)、高校生・その他が 2 人(8%)となっている。全国の児童相談所が対応した件数のパーセントと比べて、小学生、中学生の一時保護等の件数の割合が高かった。

主な虐待者は、平成 25 年度と平成 26 年度を合わせて、実母が 19 人(42.2%)、実父が 15 人(33.3%)、実父以外の父親が 5 人(11.1%)、実母以外の母親が 2 人(4.5%)、内縁の夫や内縁の妻が 4 人(8.9%)であり、全国の児童相談所が対応した件数のパーセントと比べて、一時保護等のケースでは、実父以外の父親や実母以外の母親、内縁の夫や妻によるものが多かった。

虐待者は実父母が多いが、被虐待児が生活していた家族構成と比較してみると、離婚等を伴わない家庭、つまり実父母と暮らしている家庭では、一時保護や施設入所に至るまでの児童虐待は、ほとんど生じていない。

また、施設入所等からの家庭復帰を検討したケースの虐待者の年齢は、平成 25 年度と平成 26 年度を合わせて、10 代が 1 人、20 代が 11 人、30 代が 10 人、40 代が 4 人となっていることから、年齢の若い保護者による虐待が多かった。

5. 考察

児童虐待を予防するためには、年齢の若い保護者への支援と実父母以外の家庭への支援を行う必要があることが明白となった。虐待発生のリスクが高い家庭の早期発見・早期対応が提言されているが、まさにこの調査で明確となったこれらの家庭に対する具体的な支援をどのようにするのが求められている。家庭のなかにどれだけ介入できるのかなど大きな課題を抱えているが、子育てを保護者だけに担わせるのではなく、社会全体でどのように支えていくのか、国、地方公共団体において、子どもの権利擁護のために積極的な施策展開を図ることが必要である。